

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

③教育効果・成果についての検証と教育プログラムを改善するシステムの構築

《理工農系》

●岩手大学連合農学研究科

「寒冷圏農学を拓く研究適応力育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

研究適応力育成プログラムの中心的科目である科学英語(選択、2単位)等で学生にアンケートを実施したが、どれだけ科学英語の力が身に付いたかを客観的に把握することは困難であった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

そもそも、博士課程在学中に科学英語の力をつけることは難しく、英語力の到達点を2～3年で測ることに無理があった。しかし、このことは教育の実施内容に大きな影響を与えることはなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

科学英語については、学生の科学英語に対する学習意欲が向上したかを、アンケートで的確に把握した。また、1年間のカリキュラムの中で同じ学生に2度の研究プレゼンテーションを課すことで、1回目と2回目での上達の様子を講師が確認できるようにした。